

## 平成 28 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 29 年 1 月 30 日

学 長 殿

所属部局・職名 福島大学大学院 共生システム  
 工学研究科 産業システム分野 技術経営  
 戦略研究室(石岡 賢研究室)

申請者名 藤本 太威尊

助成事業の区分 (該当するものに○印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・学会等運営・ <u>学会参加</u> ) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事業名	公益社団法人 日本経営工学会 2016 年春季大会
事業実施期間	平成 28 年 5 月 28 日～ 平成 28 年 5 月 29 日
成果の概要	<p>平成 28 年 5 月 28 日から 29 日に開催された公益社団法人日本経営工学会 2016 年春季大会において、予稿集への論文投稿と研究発表を行った。</p> <p>発表のタイトルは「企業志向型価値提供プロセスに関する考察」である。近年の市場の成熟化、市場のコモデティ化などの問題が挙げられており、このような状況における企業の競争優位の確率は困難になっている。本研究の目的はこれらの状況下における競争優位の確立の手法の提示であり、効果的だと考えられるアイデア創出、具体化、価値伝達のコンセプトについて考察したものである。</p> <p>具体的には、水平思考という思考法を用いて、製品やサービスの独創的なアイデアを創出するラテラル・マーケティングを行い、そのアイデアを企業の生産、技術部門などの特定の部門で長期間蓄積された組織能力に基づいた積み重ね技術を活用して具体化を行い、人間の五感に働きかける感性マーケティングや、社会学で用いられてきたエスノグラフィー調査を活用したポストモダン・マーケティングを行う。これにより製品やサービスの魅力を増幅して伝達することが可能になる。結論としてこれらのコンセプトによる価値提供プロセスを構築することで、成熟市場における新たなニーズ創出やコモデティ市場における差別化の実現が可能となり、企業の長期的な競争優位を確立することが可能となると考察を行った。</p> <p>質問として、実際の市場で当てはまる具体例についての質問が挙げられたため、ケーススタディについて考察を行っている。意見としては、これらのコンセプトを組み合わせることは新規性があると意見が挙げられた。</p> <p>以上のことから、今後の研究内容の進展、経営工学へ学術的な貢献をしたと考えられる。よって、本学会への参加と発表は有意義なものだった。</p>